

日本語音声教育におけるブレンディッド・ラーニングの実践  
 —グローバル MOOCs を導入したコースを一例として—  
 Practicing Blended Learning in the Education of Japanese Sound Systems  
 -An Example of a Course Introducing Global MOOCs-

戸田貴子, 早稲田大学

大久保雅子, 東京大学

胡 偉, 東北財経大学

Takako Toda, Waseda University

Masako Okubo, Tokyo University

Wei Hu, Dongbei University of Finance & Economics

## 1. はじめに

本研究は、グローバル MOOCs を導入した日本語音声教育においてブレンディッド・ラーニングを実践し、その可能性を探るものである。本研究の目的は、ICT を活用した日本語音声教育のモデル構築のための検討材料を得ることである。

対面授業で、知識と経験のある教師が学習者に寄り添い、理解度や習熟度に合わせて行う指導に勝るものはないであろう。しかしながら、それには授業時間の制約や、教室という空間の制約があり、すべての学習者に発音の学習機会を提供することは難しい。この課題の解決のために、ICT 活用教育を取り入れる必要があると考えた。

また現在コロナ禍で、世界中でオンライン授業が行われており、「学習者の発音を教師が聞いて訂正する」という従来型の発音指導のあり方を見直し、ICT を積極的に取り入れ、活用することを検討していきたい。

### 1.1 ブレンディッド・コースの課題

ブレンディッド・コースの課題は、最大限の教育効果を上げるために「何をどのようにブレンドするか」ということである（戸田 2019）。授業の到達目標を達成するために、オンラインと対面授業が「適切に」組み合わせられる必要があり、各教育機関によって学習者や学習環境は異なるため、何が「適切か」ということに対する答えは、ひとつの正解があるわけではない。このため、ICT 活用教育においては、授業をデザインする側の一層の創意工夫と柔軟な発想が求められるであろう。今後、教育現場の状況に合わせて、様々な組み合わせが可能なブレンディッド・コースの選択が、さらに増加することが予想される。

### 1.2 ICT を活用した音声教育

近年、ICT を活用した授業形態は多様化している。

筆者らは、2007 年度に一学期分 15 回の講義動画を収録、オンデマンドコンテンツの開発に着手し、翌年から対面オンデマンド併用型授業を開講した。2016 年から現在まで、ハーバード大学と MIT の共同開発によるグローバル MOOCs

(Massive Open Online Courses : 大規模公開オンライン講座) の edX (<https://www.edx.org/>) において Japanese Pronunciation for Communication (JPC) を開講し、2017 年度から早稲田大学の留学生対象の「なめらか! 発音 3-4」というコースにブレンドしている。対象は、中級日本語学習者で、第 1 週から 5 週は対面授業、第 6 週から 15 週は非同期型オンデマンド授業を組み合わせた。この中に edX の JPC を全 5 回組み込んだ。現在はコロナ禍で第 1~5 週もオンラインになり、対面授業の代わりに同期型オンライン授業を行っている。

### 1.3 SPOC (Small Private Online Course)

MOOCs のコンテンツを、所属する教育機関で担当するクラスに落とし込む手法を SPOC (Small Private Online Course) と呼ぶ。海外の大学などでは正規の単位認定が行われるなどして、活用されている。これを、ブレンディッド・コースのデザインの方法の一つとして「なめらか! 発音 3-4」に応用した (図 1)。使用リソースは次の通りである。1. 『シャドーイングで日本語発音レッスン』 (戸田ほか 2012) および出版社のスリーエーネットワークのサイト (<https://www.3anet.co.jp/np/resrcs/341240/>) に公開されている「発音のポイント」全 20 課分の講義動画、2. Waseda Course Channel で公開している 15 週間分の講義動画、3. シャドーイング練習用教材、4. MOOCs (JPC)。JPC を評価の 30% として、授業をデザインした。また、授業改善の手段として、総括的評価だけではなく形成的評価を重視し、学習者の継続的な学びを支援している。教員からのフィードバックに加えて、学生同士のインターアクションを活性化するために、相互評価や BBS (電子掲示板: Bulletin Board System)、TA のフィードバックも活用している (戸田ほか 2018)。

講義コンテンツは担当教員が作成しても構わないが、膨大な時間と労力と費用がかかる。そこで、すでに MOOCs で一般公開されているコンテンツを、授業内容に合わせて組み込むことを提案したい。

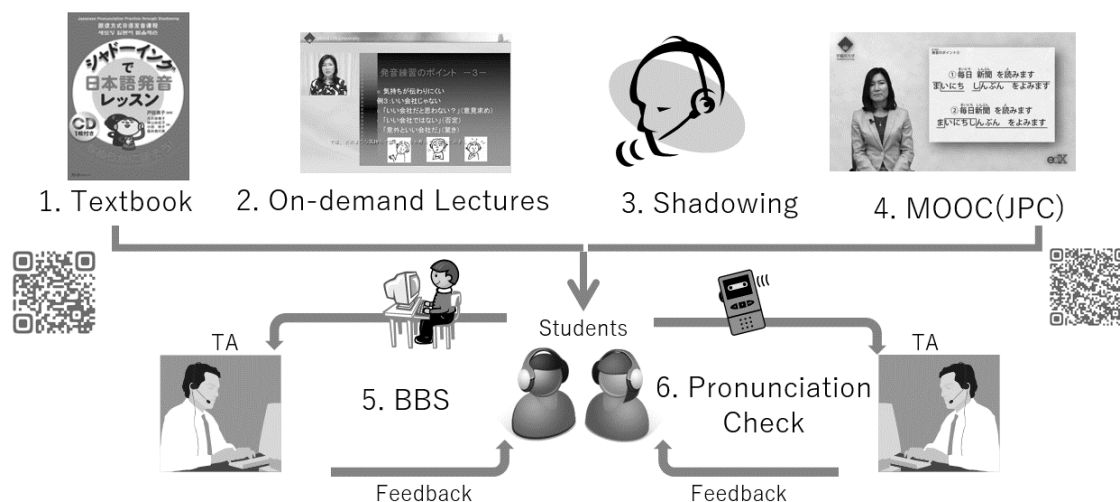


図 1 Small Private Online Course (SPOC)

## 1.4 JPC

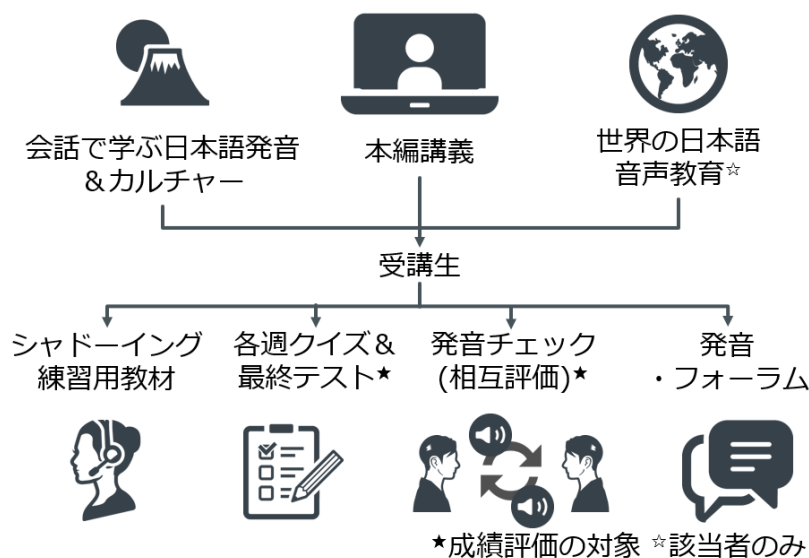
JPC は、2016 年 11 月から、世界中の日本語学習者・日本語教育関係者に向けて無料配信されており、現在までに 170 の国や地域から登録した総登録者数は 80,160 名である。(2021 年 7 月 18 日現在)

JPC は、「伝えたい気持ちや内容が伝わる発音で日本語が話せるようになること」を最終的な到達目標としたオンライン講座で、音声を焦点化している。具体的には、以下の 3 つを目指している。

- 1) 日本語音韻知識の獲得
- 2) 発音の意識化
- 3) 学習方法の理解と継続

全 5 回のテーマは、次の通りである。第 1 回発音のポイント、第 2 回アクセント、第 3 回イントネーション、第 4 回話しことばの発音、第 5 回発音の達人になろう。

JPC の各課の学習コンテンツは図 2 の通りである。受講生は本編講義、会話で学ぶ日本語発音&カルチャー、世界の日本語音声教育を通して音韻知識を身につけていく。また、シャドーイング練習用教材、クイズとテスト、発音チェック、発音フォーラムで継続的な学習を行う。



## 2. データ分析

「なめらか! 発音 3-4」の終了後、15 名の学習者を対象に、インタビュー調査を実施した。

15 名の学習者は表 1 に示されているように、英語母語話者 3 名、中国語母語話者 9 名、ロシア語母語話者 1 名、タイ語母語話者 1 名、インドネシア語母語話者 1 名である。

表 1 調査協力者の母語

S1 中国語	S2 ロシア語	S3 タイ語	S4 インドネシア語	S5 中国語
S6 中国語	S7 英語	S8 中国語	S9 中国語	S10 中国語
S11 中国語	S12 中国語	S13 英語	S14 英語	S15 中国語

インタビューの録音に基づいて作成した文字化資料を、質的分析ソフト MAXQDA を用いてコーディングした。図 3 は JPC に関わるコードの一覧である。

▼ <input checked="" type="checkbox"/> JPC全般	<b>708</b>
▼ <input checked="" type="checkbox"/> JPC利用	<b>364</b>
<input checked="" type="checkbox"/> JPC利用方法	133
<input checked="" type="checkbox"/> JPC学習時間	29
<input checked="" type="checkbox"/> JPC効果・プラス評価	108
<input checked="" type="checkbox"/> JPC要望・マイナス評価	57
<input checked="" type="checkbox"/> JPC難易度	30
<input checked="" type="checkbox"/> JPC発音チェック録音	7
▼ <input checked="" type="checkbox"/> JPCコンテンツ	<b>344</b>
<input checked="" type="checkbox"/> JPC講義動画	66
<input checked="" type="checkbox"/> JPC講義動画字幕翻訳文	70
<input checked="" type="checkbox"/> JPCシャドーイング教材	39
<input checked="" type="checkbox"/> JPCカルチャー	50
<input checked="" type="checkbox"/> JPC世界	44
<input checked="" type="checkbox"/> JPCその他素材クイズなど	34
<input checked="" type="checkbox"/> JPC印象的な内容	41

図 3 コード一覧

JPC 全般に関して JPC 利用と JPC コンテンツという 2つのカテゴリーに分けて、コーディングした。JPC 利用のカテゴリーには、JPC 利用方法、学習時間、効果、要望などのコードが含まれている。また、JPC コンテンツのカテゴリーには、講義動画、字幕・翻訳文、シャドーイング教材などのコードが含まれている。各コードの右側の数字は、コードが割り振られた文字化資料のセグメントの数である。JPC 利用に関わるセグメントは合計 364 で、JPC コンテンツは合計 344 である。

### 3. 分析結果

質的データ分析により、学習者がオンラインによる学習で様々な工夫を行っていることが明らかになった。これらの工夫を 6つのカテゴリーに分類し、以下に示す。

#### 3.1 わからないところは繰り返し視聴する

分析結果から、学習者はわからないところは繰り返し視聴していることがわかった。以下、学習者のセグメント例を示す（原文ママ）。

それは、そう…その内容を、2回目、あー…2回目、聞いていたので、  
(中略) 多分、もう1回を一…例えば何か、うまく分からなかったところがあったら、多分、そのところにスキップ…しました。(S13)

はい。直し後で、勉強して…テスト(クイズ)が終わった後で、ビデオ、もう一度…この、自分の、ミスどこがミスがある、ビデオが見ます。(S11)

下の…クイズ、クイズが…{笑い}やはり、間違い…ところがたくさんあります。(中略) ビデオをもう一回見て、クイズをもう一回します。(S15)

S13は、視聴してわからなかったところは、その部分に戻って講義ビデオを再度視聴していた。また、S11とS15は、クイズで間違えたとき、もう一度講義ビデオを視聴していた。これらのセグメントから、学習者はわからないところを繰り返し視聴していることがわかった。

### 3.2 スピードを調整して練習する

S9のセグメントでは、オンライン講座の音声を速くしたり、遅くしたりして練習していることが示されている。

私は、例とか、インターアクション? <インターアクション。> インターアクションの、自分で、もっと練習して、それで、家でも良いですよ。でも、授業で、先生のスピード…スピード? スピード、もっと速い、もっと…遅い、これはできません、できませんですよ? でも、自分で言えて、ちゃんと練習して、これは一番良かったことだと思います。(S9)

JPCでは、動画の再生速度を変更できるようになっており、0.75倍速、1倍速、1.25倍速、1.5倍速、2倍速の5段階から再生速度を選択できる。この機能を使用し、学習者がオンライン講座の音声のスピードを調整して練習していることがわかった。

### 3.3 字幕を切り替えながら、動画を理解する

JPCには、日本語、英語、中国語、韓国語の字幕が選択できるようになっているが、学習者は複数の字幕を使用していた。

<全部中国語にしないで、時々日本語の字幕を見たんですか?> 実は、日本語の方が多いです。もし、日本語の字幕が理解できないとき、中国語の字幕を選びました。(S1)

あー、時々、あー難しい、テキスト、例えば、「清水寺」について、ちょっと難しい内容だと思います。だから英語を使いました、時々言葉が全然わから

なかった。日本語で、見る、でも全然分からない、「それはなんですか」、  
そうだから、英語を使いました。(S2)

私は、高校生から、あー、ずっと、英語で、勉強してましたから、タイ語  
を…うーん、読むと、時々、ん、っと迷ってしまいますから。私は、英語で、  
英語のほうが、あー分かりやすいと思います。でも、あー、Japanese を使う  
とき、I really...it's very hard, but, for some terminology, I know, like, I want to  
know in Japanese what it is, what is it. So I change to Japanese. But, normally when  
I watch the teachers explaining, I will change to English. Because, だいたい、I don't  
understand, about the terminology, because, even if in English, some terms is  
quite...for example intonation. What is intonation... (S3)

中国語母語話者の S1 は、日本語の字幕を使用しながら動画を視聴し、日本語  
の字幕で理解できないときは中国語の字幕で視聴したことがわかった。ロシア語  
母語話者の S2 も日本語の字幕を見て、わからないときは英語の字幕を使用して  
いた。タイ語母語話者 S3 は、専門用語を日本語で何というのかを知りたいとき  
に日本語字幕にするが、通常は英語字幕を利用していると述べている。これらの  
セグメントから、母語、日本語、英語等、それぞれのタイミングで字幕を切り替  
えながら動画を理解しようとしていたことがわかった。

### 3.4 既習項目はスキップする

JPC には多くの動画が用意されているが、学習者によっては全ての動画を視聴  
しているわけではないことが示されている。

<講義動画は一つの週でも、たくさんの動画がありました、全て、見まし  
たか?>うーん、見ないですね。うーんちょっと、あー、これはたぶん分か  
る。その文は、スキップ。(S9)

自分が、自分にとってもっと、やりたいところを、もっと…して、自分にと  
って、もう知ってた?ところをスキップ…していた。(S14)

S9 と S14 は、既習項目をスキップしながら学習していた。これにより、学習  
者は既習項目をスキップするという工夫を用い、自分の学びたい項目に時間をか  
けて学習していたことがわかった。

### 3.5 先に動画スクリプト・字幕を読んで、動画を視聴する

すぐに動画を再生するのではなく、文字情報を先に読んでから動画を視聴する  
学習者もいた。

Word があるので、えっと、まず、ビデオを見る前に、その Word を見まし  
た。そして、ビデオを見ました。(中略)やはり…予習?という感じ。<予  
習、うん…意味が先に知りたい?>はい。(S10)

私なら、字幕も、日本語の字幕も…。最初は、中国語の字幕、その、ビデオの隣のところ、ちゃんとその、大体、何か内容は、この授業、この授業の内容大体、み、見て、そして、スタート。(中略)最初はビデオを見ないです。内容を見る。あー、その、速い、速い?…ちょっと見る。〈あー速く見て…〉そして、日本語の…字幕、ここ日本語の字幕、そしてビデオを見る。  
(S12)

S10 は、講義動画のスク립トが書かれた Word ファイルを読んでから講義動画を視聴していた。また、S12 のセグメントからも、講義動画の横に表示されている字幕を読んでから講義動画を視聴していることが示されている。これらのセグメントから、文字情報を読んでから講義動画を視聴する学習者がいることがわかった。

### 3.6 サイトを活用し、アクセントを音声で確認する

JPC には多くのシャドーイング練習素材が用意されているが、一般のソフトを使用して練習素材の音声のスピードを調整し、アクセントを聞き取ろうとしている学習者もいた。

あの実は私は、シャドーイングの時、もし日本語の発音が速いだったら、自分で「ボイステキスト」というサイトで、テキストを入力?します。だから、サイトで、デジタルボイスで発音します。その…その、自分で辞書を、辞書で単語のアクセントも、調べていますけど、動詞のアクセントは、会話の時変わることがあります。〈ありますね。〉その時は、「ボイステキスト」で…日本語のテキストを入力して、デジタルボイスで日本語を発音します。えと、スピードが自分で選びます。えと、とても便利です(中略)〈実際のものよりもゆっくりめのものを聞くんですか?〉はい。(S1)

S1 は文字を音声に変換するソフトを使用し、JPC の練習素材スク립トから変換された音声を聞いて練習していた。JPC の練習素材の音声は速くてアクセントの音の高低を掴むことができなかつたとき、このサイトを使用してゆっくり音声を再生し、アクセントの音の高低を耳で掴んでいたことがわかった。

## 4. まとめ

学習者は様々な工夫を行っていることが明らかになったが、「繰り返し視聴する」、「既習項目はスキップする」、「字幕を切り替えながら動画を理解する」、「スピードを調整して練習する」といった工夫から、学習者は自分に合った方法や工夫を用いて JPC を学習していることがわかった。次に、「先に動画スク립ト・字幕を読んで動画を観る」という工夫が示された。また、「サイトを活用して、アクセントを音声で確認する」という工夫も示された。これらの学習方法の違いは、視覚型や聴覚型の学習スタイルに関連するものであることが推測される。

さらに、学習者が行っていた工夫から、学習者の個別性・多様性に合わせた音声教育が必要であるということがわかった。しかし、従来型の対面授業で学習者全ての個別性・多様性に合わせることは限界があるため、ICTを活用することでこの課題を解決できるのではないかと考えられる。本研究で既存のオンライン講座を活用したブレンディッド・ラーニングの一例を示したが、対面指導の利点とICTの利点を組み合わせたブレンディッド・ラーニングが今後、求められていくであろう。

今後の課題として、日本語音声教育におけるブレンディッド・ラーニングのモデル構築を行っていききたい。

### 参考文献

- 戸田貴子 (2019) 「ブレンディッド・ラーニング—新たなモデルの構築と音声教育実践—」 『早稲田日本語教育学』 26, 1-20
- 戸田貴子・大久保雅子・千仙永・趙氷清 (2018) 「グローバル MOOCs の相互評価における継続参加—日本語発音オンライン講座の分析を通して—」 『日本語教育』 17, 32-45
- 戸田貴子・大久保雅子・神山由紀子・小西玲子・福井貴代美 (2012) 『シャドーイングで日本語発音レッスン』 スリーエーネットワーク
- Japanese Pronunciation for Communication (JPC)  
<https://www.edx.org/course/japanese-pronunciation-for-communication>  
 (2021年8月31日)
- Waseda Course Channel (なめらか! 発音 3-4)  
<http://course-channel.waseda.jp/subject/contents/9204B34014/02/92>  
 (2021年8月31日)